

「聞く力」を育てるには？

「自分の話ばかりして、なかなか人の話を聞かない」というお子さまがいますが、自分の気持ちを分かってほしいという気持ちが強く、相手の話が二の次になるのは子どもの特性としては、仕方のない事のように思えます。

「自他の区別」が出来、「相手と自分とは異なる気持ちがある」という事がわかるようになるのは1歳頃と言われています。

だからこそ、幼い頃からしっかりと人の言葉に耳を傾け理解できるように、大人の方が意識をもっておくといいですね。

では、日常生活の中で、どのように「聞く力」を養っていけばよいのか。

例えば、普段のお子さまとの会話を振り返ってみてください。「今日は、何して遊んだ？」と聞いて「えっと、お外でおにごっこして～、それから～」と子どもが続けている途中で「そうだ、買い物行かないと。晩御飯は何が良い？」というような話の道筋を逸れる会話を無意識にしているませんか？

子どもの話に熱心に耳を傾けないことには、子ども自身が「聞く事」の重要性に気付く事は出来ません。

会話のキャッチボールを丁寧にしてみてください。

また、子どもを叱る時にばかり言葉を多く使っていませんか？

くどくどと叱られる経験が多くなると、子どもは防衛手段として心の耳を閉じてしまい、言葉を聞き流す癖をつけてしまいます。

そうならないためにもほめる場面でたくさんの言葉を使ってみてはいかがでしょうか。

具体的な感想を交えながらたくさんほめれば、子ども達は聞く事に嬉しい気持ちが生まれ、自ずと聞く姿勢を身につけていけます。

楽しく遊びながら「聞く力」をつけるには、伝言ゲームが良いですよ。短い文章を伝えてく事は、最後まで集中して聞き、聞き取った内容を理解して復唱することは、正しい傾聴姿勢につながります。

しっかり聞いてなかったからといって、叱ってしまうのはNGです。目を見てもう一度ゆっくり話してあげる事で、聞こうという姿勢になってくれるはずですよ。「聞く力」は「話す力」「書く力」そして「コミュニケーション能力」の根幹です。

ご家庭でもたくさんの言葉をもって「聞く力」を身につけていけると良いですね。